

「人材育成」に関するご意見

- 1) 独立行政法人情報通信研究機構 富永構成員 ……1ページ
- 2) KDDI株式会社 嶋谷構成員 ……8ページ

NICTにおけるICT分野の 研究開発人材育成の 取り組みについて

2011年6月24日

独立行政法人 情報通信研究機構

理事 富永 昌彦

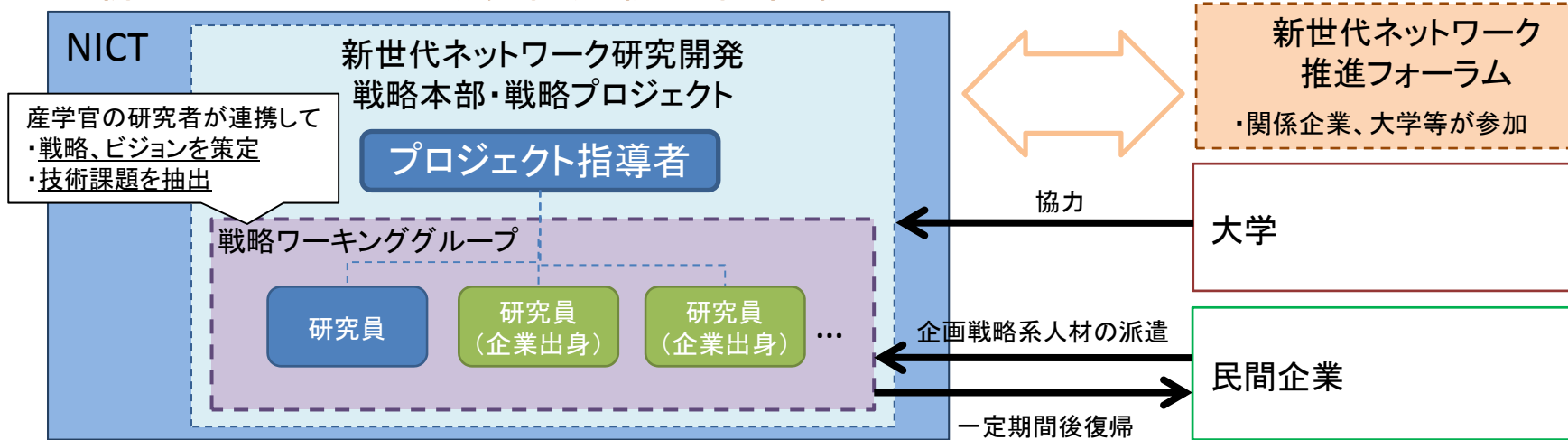
1-1 産学官が連携したプロジェクトの推進による 人材育成の取り組み(概要1)

| | 新世代ネットワーク 研究開発戦略本部・ 戦略プロジェクト | MASTAR * プロジェクト |
|---------------|---|---|
| プロジェクト内容 | 新世代ネットワークの研究開発に関する中核的拠点として、中長期的な戦略を産学官連携で策定 | 音声・言語・翻訳に関する研究開発の中核的拠点として、各資源の収集・蓄積等の研究開発及びその成果の社会還元に向けた活動を産学官連携により実施 |
| プロジェクト期間 | 2007年10月～ | 2008年4月～ |
| 企業からの 受入人数 | 年平均5～6名 | 年平均5～6名 |
| 受入期間 | 2～3年 | 2～3年 |

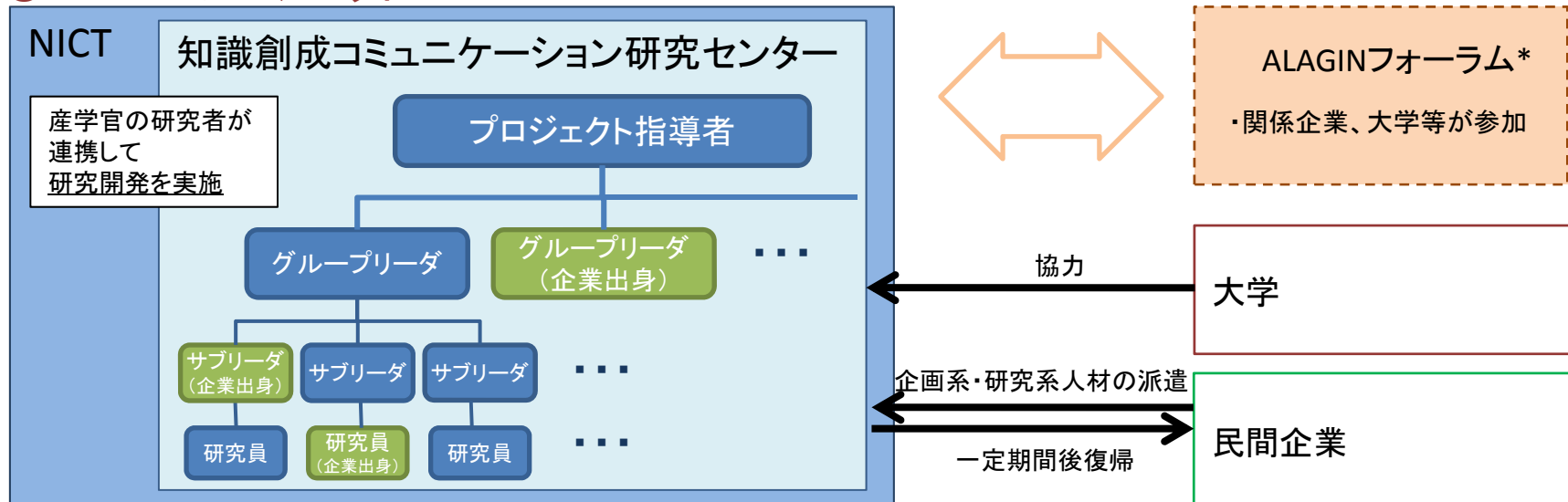
* MASTAR : Multi-lingual Advanced Speech and Text reseARch

1-2 産学官が連携したプロジェクトの推進による 人材育成の取り組み(概要2)

○新世代ネットワーク研究開発戦略本部・戦略プロジェクト



○MASTARプロジェクト



* ALAGINフォーラム : Advanced LAnGuage INformation Forum (高度言語情報融合フォーラム)

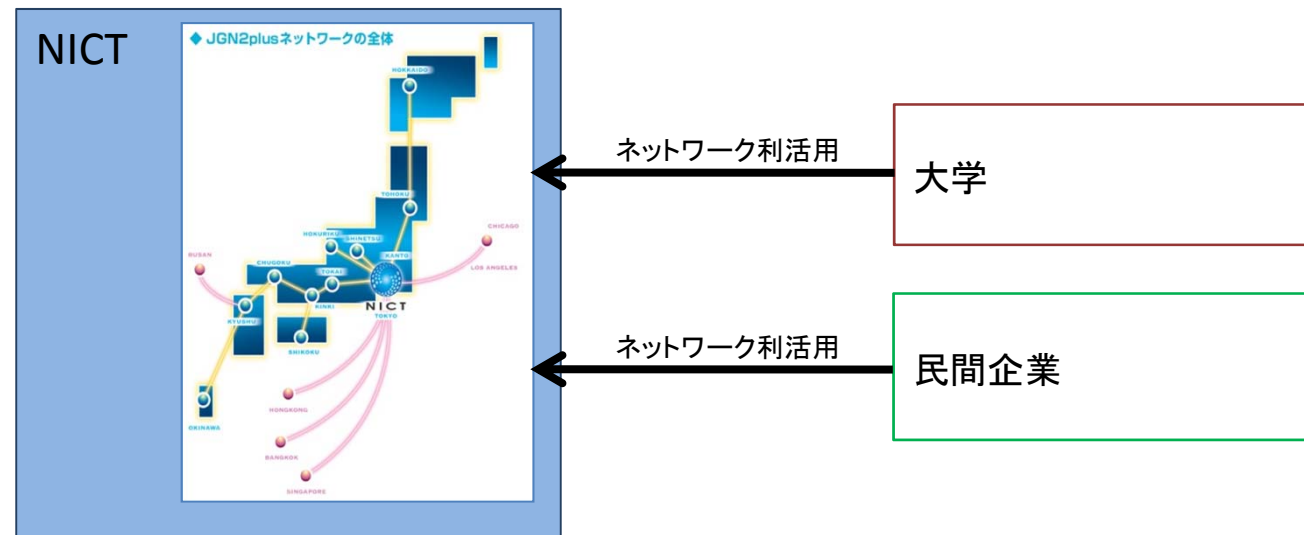
1-3 産学官が連携したプロジェクトの推進による 人材育成の取り組み(成果)

人材育成は時間を必要とする課題であり、育成された人材の業績を長期にわたって評価することにより、その効果が適正に評価できるものと考えられるが、現在実施しているNICTのプロジェクトについては、産学官の人材が一体となって取り組むことによって次のように成果を上げており、その過程において参加者が非常に有意義な経験を積み、能力を向上させていると考えられる。

- 「新世代ネットワーク研究開発戦略本部・戦略プロジェクト」において、中長期的な研究開発方針としてグローバルな視点から検討した戦略を策定しており、現在、それに基づいた研究開発が推進されている。
- 「MASTARプロジェクト」において、多数の企業を巻き込んだ実証実験を全国各地で実施し、また、スマートフォン用翻訳アプリケーションを一般公開して好評を博するなど、社会還元が進展している。

2-1 研究開発テストベッドネットワークを用いた 人材育成の取り組み(概要)

| | 研究開発テストベッドネットワーク |
|--------|--|
| 取り組み内容 | 最先端の情報通信技術の実証が可能な国際的テストベッドネットワークを構築し、大学、企業等に研究開発用として広く開放。 ネットワーク関連技術の高度化や多彩なアプリケーション開発などの各種研究開発を推進。 |
| 取り組み期間 | 1999年4月～ |
| 参加研究者数 | 約360名(年平均) |

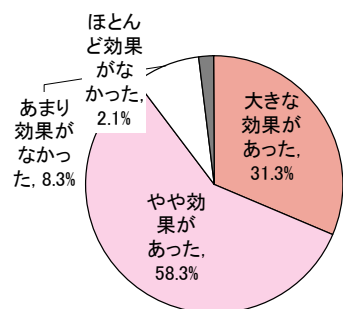


・大学、企業等と連携して各種の大規模実証実験(全国規模の皆既日食ライブ高品質映像伝送実験、海外ネットワークとの相互接続実証実験等)を実施

2-2 研究開発テストベッドネットワークを用いた 人材育成の取り組み(成果)

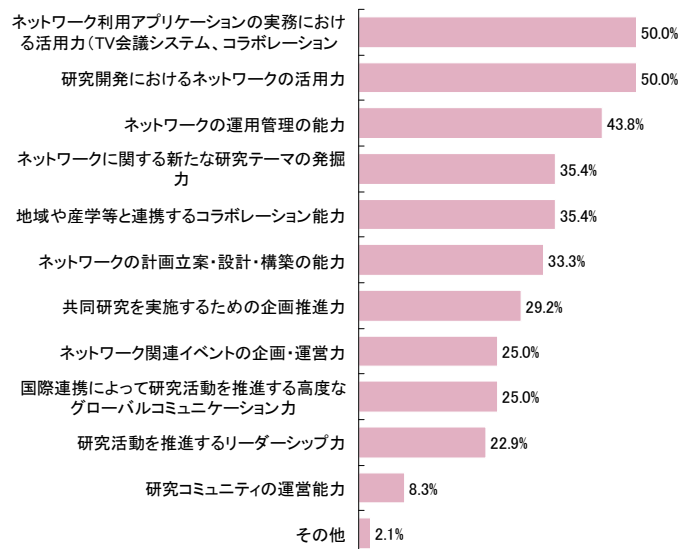
- 2010年に参加研究者を対象としたアンケートを実施
- 利用機関の9割が人材育成に関する効果があったと回答
- 育成された能力としては「新たなテーマの発掘力」、「地域や産学等と連携するコラボレーション能力」、「共同研究を実施する企画推進力」、「国際連携によって研究活動を推進する高度なグローバルコミュニケーション力」等が挙げられている

JGN2plusプロジェクトの人材育成効果



(資料) JGN2plus成果アンケート/2010年10~12月

JGN2plusの活用によって育成された能力



(資料) JGN2plus成果アンケート/2010年10~12月

3 研究開発人材育成に関する今後の取り組みについて

NICTでは、今年度より新たに第3期中期計画に基づいて研究開発を実施しており、社会的課題に対応するため、機構内組織の横断による様々な連携プロジェクトを推進することとしている。これらのプロジェクトにおいては、機構内の連携のみならず、産学との連携が必要なものが想定され、これを活用した人材育成を推進していきたい。

【要旨】

ライフイノベーションの実現に向け、「デジタルネイティブ」の活用について検討することが望ましい。

- デジタルネイティブとは、生まれた時からインターネットやパソコンのある生活環境の中で育ってきた世代であり、以下の特徴を有するとされている。
 - 現実の出会いとネットでの出会いを区別せず、人間関係もネットの中にある。ネットで繋がる関係が中心。
 - 相手の年齢や所属肩書にこだわらない。
 - 情報は無料で得られると考えている。
 - 経済的成功のみを追いかけない。資本の論理を追わない。自分の価値観を追求する。
 - 巨大な組織に背を向ける傾向がある。個人の価値観を優先する。
 - 「まじめ」よりも「面白さ」を重視する。
 - 満足を、直ぐに繰り返し求める傾向がある。

- 近い将来、デジタルネイティブが社会構成の中心となることから、我が国の研究開発力を強化するためには、デジタルネイティブの特徴を踏まえて、その能力を如何に発揮させるか、検討することが望ましいと考える。

- 具体的に、例えば以下について検討してはどうか。
 - 自ら興味を持ったテーマのみならず、国が必要とする研究テーマに積極的に取り組んでもらうための支援方法について（コンテストなど）
 - 新人デジタルネイティブの育成について（若手ベンチャー経営者のところで経験を積ませる、グローバル企業の恵まれた新人育成環境と同程度の環境を用意する、など）

以上